

＜本年度の目標＞

高中生が幸せな大人になるための支援(=3本の柱=の具現化に向けて)の足掛かりの年とする

① 職業体験等による不登校生徒へのサポート

○自立に向けて、地域の職場体験先の有効活用

② 子どもは地域で育てる

○地域の人材や事業所の有効活用

③ 良い行動の紹介

○HPや新聞掲載等を通じて発信

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

○校長を中心に学校教育目標、めざす生徒像の説明を受けた。

○令和6年度の指導の重点

- ・生徒とともに、主体性を伸ばし、学びに向かう姿勢を育む教育活動
- ・魅力的な大人であり、チームとして共に学ぶ高め合う教師等についての説明を受けた。

○学校側としていくつかの取り組み内容は理解出来たが、委員同士の熟議は十分になされなかった。その主な要因としては委員の出席者が少ないことがあげられる。来年度は委員への参加依頼を積極的に行う必要性を感じた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

○学校教育目標「幸せな大人になるための学校」の支援、3本柱の具現化に向けての意見が出された。特に、不登校生徒へ職業体験先を委員からいくつか紹介された。また、各種の地域の人材を紹介してくれようとしている地域に精通した熱心な委員がいる。学校や生徒にとってどんな支援が必要か、学校側からの提案を今後も要望していく。

○どの会でもいくつかの意見が出されたが、いずれも単発的な意見交換に終わってしまうことが多く、来年度はより熟議を深めたい。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

○各委員が個人的にそれぞれの立場で情報発信をしている。また、学校側としても、いち早く会の様子をHPで紹介している。各委員の発信力だけでは、影響力は十分ではないので、今後も学校側の働きかけに期待する。なお、学校作成の議事録については、忠実にまとめられていて申し分のない内容である。HPを多くの地域の住民に周知していきたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（

「幸せな大人になるため」の支援(=3本の柱=の具現化に向けて)の実践を積極的に進める。

○3本柱の具現化に向けて、委員を中心により実践的な活動を進める。

- ・不登校生徒へのサポートについては、生徒の状況を踏まえながら多くの職業体験先を模索し、実践につなげる。
- ・地域人材に精通している委員や教職員から講師を紹介し、授業や講演会・講話に生かしていく。それらを通して、生徒が輝ける高台地区の未来につなげたい。

・委員からの情報発信はもちろんであるが、学校側としても高台中生全体や個人の良いところを積極的にHPや新聞掲載等を通じて発信していく。

○学校側には委員の意見を積極的に取り入れ共に実践を進めていくように強く要望する。